

ほけんだより一性に関する指導（いのちの学習報告）一

絆一きずな一

平成30年2月2日
明覚小学校保健室

私たちは自分1人では、生きていけません。家族や友だち、地域の人などたくさんの人たちとの絆の中で生きています。これからも人と人との絆を大切に、生きてほしいという願いを込めて、性に関する指導のほけんだよりを「絆一きずな一」と名付けました。

1月30日（火）第5校時に、埼玉医科大学病院 産婦人科医師 高橋幸子先生を講師としてお招きし、性に関する指導【いのちの学習～大切ないのちのつながり～】を行いました。当日は、6年生の児童と保護者の方に参加していただき、科学的な視点からいのちの大切さや赤ちゃんの誕生について等、たくさんのお話を教わりました。思春期外来を専門に、子供たちをメインで診察している高橋先生の話に、6年生も保護者の方も真剣に聞いていました。

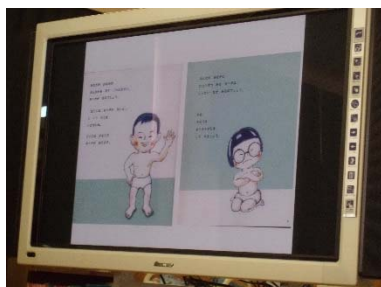


<先生の紹介>

医師 高橋幸子先生

埼玉医科大学病院 思春期外来で毎週木曜日に診察をしています。
若年妊娠や性虐待など、子供達の性の問題に数多く携わっています。

『おへそのひみつ』という本から、本の中には書かれていなかった3つの科学を勉強します。



<1つめの科学>

『赤ちゃんはお母さんのお腹の中でただすやすや眠っているだけなのですか？』自分の心拍数を測った後、赤ちゃんの心音（心拍数）を実際に聞かせてもらいました。

『1分間に60～80回の心拍数だと正常値』
『80～100回だと緊張してドキドキ』
『60回未満は、強い心臓の持ち主かも？』
6年生は、半数以上が正常値でした。

赤ちゃんの心拍数は・・・1分間に147回！！
お腹の中で一生懸命生きようと頑張っています。



<2つめの科学>

『赤ちゃんはお腹からどうやって生まれてくるのでしょうか？』お母さんの膣（おしっこをする穴とウンチをする穴の間にある穴）から生まれてきます。膣は男の人にはありません。



<3つめの科学>

『赤ちゃんはどうやってお母さんのお腹の中に入ったのでしょうか？』男の人の精巣は、遺伝情報がたくさんある大切なところ。ペニスを使って、女の人の膣にその遺伝情報を送ってあげます（=性交）。人間は交尾とはいいません。「性交=心が生きて交わる」のです。そうすると、女の人のお腹の中で赤ちゃんのいのちが始まります。膣は赤ちゃんが始まる場所であり、生まれてくるための場所でもあります。性交は、「①赤ちゃんができる可能性があること、②責任が伴うこと」でもあります。だから、今はまだみなさん（子供）には必要がありません。



出産VTR

高橋先生が出産したときの映像を見せてもらいました。1分間の陣痛と3分間の休憩を10時間以上繰り返して、元気な赤ちゃんが生まれました。お母さんも赤ちゃんも命がけです。

おれたち ロケット少年	13歳までに 伝えたい 女の子の 心と体のこと	女の子、 はじめます。
手丸 かのこ(著) 金子 由美子(著) 子どもの未来社	やまがたてるえ(著) かんき出版	北村 邦夫(著) 小学館

<高橋先生オススメの本>

性に関する正しい知識が、思春期を迎える子供にもわかりやすく書いてある本です。この3冊は保健室にも置いてあります。貸し出しもできます。ご希望の場合は、保健室までお声がけください。

6年生の感想

○今はお母さんに怒られたり、注意されたりしたときに「うるさいなあ」と思うこともあるけれど、こんなに辛い思いをして生んでくれたんだと思うとすごく「生んでくれてありがとう」と思いました。この気持ちを恥ずかしいけれどいつか伝えたいと思いました。（女子）
○お母さんと赤ちゃんと一緒に頑張っていることがわかりました。これからも自分のいのちや友達とのいのちを大切にしていきたいです。（男子）

保護者の感想

○「生命のこと」「性のこと」知っているつもりでしたが知らないこともあり、わかりやすい高橋先生の話、とても良かったです。正しい知識、正しい言葉できちんと伝える大切さを実感しました。
○性の話を子供にどう話したらいいのかわからず、悩んで避けていました。でも、「科学的にサラッと正しく伝えること」がポイントだとわかり、参考になりました。